

令和7年度 「教科の学び」

《学校教育目標》

「志を持ち 自ら学ぶ 健康でたくましい生徒」

「生きる力」の育成：「知力・徳力・体力」の調和のとれた資質・能力

《桶川西中での三年間の学び》

現行の中学校学習指導要領は平成29年に告示されました。特に、教科指導については、「知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」」が明示されました。ですから、以前までの学習指導要領の理念（「生きる力」の育成）を基盤としながら、改定要領の趣旨を加味し、本校でもこの新しい学びを視野に入れ、学習指導を展開していくことになります。

さて、「生きる力」を構成する知的側面である「学力」は、3つの要素に定義されます。（学校法30条）

- （1）「基礎的・基本的な知識や技能」
- （2）「課題解決のための思考力、判断力、表現力」
- （3）「主体的に学習に取り組む態度」

従って、本校でも、すべての教科で、この3つの要素を高める指導を展開しており、評価もこの3要素を基準に「3つの観点」で行います。（具体的な評価方法については、各教科のページに記載）

さらに、「学力」の育成のため、新学習指導要領の方向性を共有することになりますが、教科指導において具体的に示されているのは、

- （1）「何ができるようになるか」
- （2）「何を学ぶか」
- （3）「どのように学ぶか」

の3つの視点です。特に、質の高い理解を図るための学習過程の工夫が重要と捉えています。新学習指導要領が令和3年度から全面実施され、生徒の主体的な授業参加の機会が増大すると考えます。

《教育課程》

教科・領域	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	1年生	週当たり	2年生	週当たり	3年生	週当たり
国語	140	4	140	4	105	3
社会	105	3	105	3	140	4
数学	140	4	105	3	140	4
理科	105	3	140	4	140	4
音楽	45	1.3	35	1	35	1
美術	45	1.3	35	1	35	1
保健体育	105	3	105	3	105	3
技術家庭	70	2	70	2	35	1
英語	140	4	140	4	140	4
特別な教科である道徳	35	1	35	1	35	1
総合的な学習の時間	50	1.4	70	2	70	2
特別活動	35	1	35	1	35	1

【年間授業時数1015時間、1週間の授業時数29時間】

《日々の学び》

本校では、「授業」を重視し、学級・生徒個々に高度な取組を求めています。また、学習内容の確実な定着のための「家庭学習」の充実を進めています。

(1) 「授業の約束(3つの行動・5つの心構え)」

① 「3つの行動」 ～「思考力・判断力・表現力を伸ばそう」～

- ア 思考
- イ 判断
- ウ 表現

「学力」の要素の内の1つで、現行学習指導要領で重視。
高校入試ではすでに出題、大学入試でも、思考した内容を記述する問題が出題されます。(令和2年より)

② 「授業の5つの心構え」 ～「進んで学び、自らを向上させよう」～

- 一、2分前着席をしよう
- 二、大きな声であいさつをしよう
- 三、意欲的に取り組もう
- 四、自分の考えを表現しよう
- 五、準備をしてから休み時間にしよう

中学校の学習内容は、より専門的になるので「学びがい」があります。「高い山ほど、裾野は広い」のとおり、自分の得意分野・教科を伸ばすためには、全教科の学習に万遍なく取り組むこと、能動的な取組姿勢も必要となります。授業は教科ごとに担当教師が替わり、小学校に比べて進み方も速くなります。

また、中学校の学びは、進路選択が控えています。3年間の学習成果を「進路実現」として、開花させることが求められているといえるかもしれません。ですから「進路学習は1年生から」を合言葉に、系統的な学び、計画的な学びを1年生から実践していきましょう。

そこで、

- ① 授業をしっかりと受けるために、「授業の約束」を守り、きちんとした態度で授業を受けましょう。授業に向かう姿勢と気持ちをつくることが大切です。
- ② 漠然と授業を受けているだけでは本当の学力はつきません。担当の先生の話は顔をあげて、よく聞きましょう。本校では、「話は目で聴く」と指導しています。
- ③ ノートは黒板に書かれたことをただ写すだけではなく、先生が何回も繰り返して説明している大切な所も書き留めましょう。
- ④ 配られたプリントは【ファイルに綴じる】【ノートに貼る】などして教科ごとに整理し、わかりやすく保存しておきましょう。
- ⑤ 宿題や提出物は期限を守って、忘れずに提出しましょう。
- ⑥ その日、授業で習ったこと、わからなかったことは授業後に先生や友達に聞いて、その日のうちに理解しましょう。次の日に持ち越さないことが大切です。
- ⑦ 5教科も重要、技能教科(音楽、美術、体育、技術・家庭科)も重要。忘れ物をせず、歌い、走り、作品を制作することは、【思考力】【表現力】の向上につながるので、全ての教科に誠実に取組みましょう。

(2) 「家庭学習」

① 学習時間の目安

学習時間＝学年＋1時間

(1年生は、2時間。2年生は、3時間。3年生は、4時間です。)

② 学習の進めかた

- ・学習を始める時刻を決める
(毎日同じ時刻に勉強を始めることで、学習習慣が身に付きます。)
- ・学習内容を決める
(繰り返しの読み書き ⇒ 覚える)
(教科書ノートを振り返る ⇒ まとめ理解する)
(ワークなど ⇒ 問題を解けるようにする)

- ア 学習する環境を整える。
学習の妨げになるような物は周囲に置かない。『使わない』『視界にいれない』
- イ 家庭学習の目標を決める。（まず宿題・課題。次に、自主学習）
家庭学習が自主学習の始まりです。西中では「家庭学習ノート」の取組をしているので、今日1日の学習を決め、遂行しましょう。
- ウ 提出物は期限を守って出せるように計画的に取り組む。
提出物は、自分の学習成果の再確認となります。また、成績にも連動します。
- エ 学習前後に娯楽性の高い時間（電子端末の利用など）があると『学習の記憶』よりも『楽しい記憶』の方が上回ることがあるので、気を付けましょう。

（３）定期テスト など

① 定期テスト（予定）

- ・ 1 学期：中間テスト（5 教科） 期末テスト（全教科）
- ・ 2 学期：中間テスト（5 教科） 期末テスト（全教科）
- ・ 3 学期：学年末テスト（全教科）

- ア 日頃の授業内容が出題範囲です。
定期テストは2週間前に「範囲表」と「テスト取組表」を配付します。
毎日の授業の復習を欠かさずに、継続的に行うことが重要です。
- イ テスト後は個表が返却されます。
【得点】【平均点】【全体順位】を参考に、自己分析し、次の目標設定に役立てます。
- ウ テスト後の見直しは、とても効果があります。
（問題用紙は、各自ファイルなどに整理）
（テスト後の授業で、先生方が問題の解説）
（自分の学習「得意・不得意」の把握）
- エ 欠席の場合は後日、テストを受けることになります。得点は参考点となります。

② 校内実力テスト（5教科）（時期は令和4年度のもの）

- ・ 1, 2 年生 2 回（4 月、1 0 月）
- ・ 3 年生 2 回（4 月、1 1 月）＋南部校長会テスト 3 回（8 月、1 0 月、1 月）

③ 長期休業後の確認テスト

- ・ 1, 2 年（8 月、1 月）：夏休み、冬休みの課題の定着度を測ります。

④ 各教科の小テスト 学習内容の確実な定着のために教科担任が独自に実施します。

- ア 校内実力テストは有償です。教材費から支払い、体調不良等で欠席した場合は返金します。
- イ 受験者母集団が多いので、より客観的なデータとして自己分析に役立てることになります。定期テストでは示されない、【標準点・偏差値】が示されます。
- ウ 6 か月ごとの自身の結果を把握・振り返り、学習の見直しに役立てます。

⑤ 全国学力・学習状況調査（科目は令和4年度のもの）

- ・ 3 年生 ①国語 ②数学 ③理科 ④質問紙調査

⑥ 埼玉県学力・学習状況調査

- ・ 3 年生 ①国語 ②数学 ③英語 ④質問紙調査
- ・ 2 年生 ①国語 ②数学 ③英語 ④質問紙調査
- ・ 1 年生 ①国語 ②数学 ③質問紙調査

- ア 7 月の中旬ごろ結果が返送されてきます。各自に個表が配られます。
- イ 文部科学省、埼玉県教育委員会では、都道府県別、市町村別の結果を公表しますので参考にしてください。本校の結果は、分析後 1 2 月にホームページに掲載します。

- ⑦ 新体力テスト（５月）
・全学年 ５０ｍ走、ボール投げ、握力、等
- ⑧ 各種コンクールへの出品
・書写（書道）、美術、発明創意、作文、等多種多様な機会があります。
・授業での作品を出品する場合がありますし、自由応募もあります。
- ⑨ 検定試験
・漢字検定 ３回（各学期）担当より募集を行います。個人で直接応募もできます。

これらの他に、受験期には個人で申し込む民間業者のテスト（５教科）もあります

（４）評価・評定について

評価・評定は、授業への取り組み状況、作品やレポートの評価、実技、小テスト、定期テスト等を総合的に判断していきます。また、各教科に３つの観点（知識・技能／思考・判断・表現／主体的に取り組む態度）があり、観点は３段階（Ａ・Ｂ・Ｃ）で示されます。そして、その観点をもとに、評定は５段階（５・４・３・２・１）で示され、学期末に通知表として配布されます。各教科の観点の詳細は以下の表の通りです。授業時に、各教科担当の先生から説明があります。

	観点	観点詳細
国語	知・技	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
	思・判・表	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」において伝え合う力を高め、自分の考えを深めている。
	主体態	積極的に人と関わり、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。
社会	知・技	社会的事象に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。
	思・判・表	社会的事象について課題を見だし、多面的・多角的に考察し、公正に判断して説明したり、それらを基に議論したりしている。
	主体態	社会的事象について、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
数学	知・技	基礎的な概念や原理・法則などを理解し、事象を数式化したり、数学的に解釈し、表現・処理する技能を身に付けている。
	思・判・表	事象を論理的に考察する力、性質を見だし総合的・発展的に考察する力、事象を数学的に表現する力を身に付けている。
	主体態	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を生活や学習に生かしたり、問題解決の過程を評価・改善したりしている。
理科	知・技	自然の事物や現象に関する基本的な原理・法則の知識を身に付け、実験観察の基本操作から結果を記録整理する技能を身に付けている。
	思・判・表	目的意識をもつて観察・実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。
	主体態	自然の事物・現象に進んで関わり、事象を人間生活とのかかわりでみようとしている。
音楽	知・技	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な知識、技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
	思・判・表	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、自分なりの意図をもって、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聞いたりしている。
	主体態	音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
美術	知・技	造形的な視点を理解しながら、表現方法を創意工夫し、作品を創造的に具現化している。
	思・判・表	主題を見極め、豊かな発想で構想を練磨し、また美術文化に対する認識を深めることができる。
	主体態	創造活動の喜びを味わい、自ら主体的に表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
体育	知・技	特性や基礎的な内容を理解し、その特性に応じた技能を身に付けている。
	思・判・表	特性に応じた課題を発見し、解決に向けて工夫するとともに、自己の考えを表現している。
	主体態	健康・安全に留意し、自主的に取り組んでいる。自己の役割を自覚し、ルールやマナーを守り、活動している。
技家	知・技	生活と技術について理解しているとともに、それらに係わる技能を身に付けている。
	思・判・表	生活や社会から問題を見出し、課題を設定し解決策を構想・評価・改善・表現し課題を解決する力を身に付けている。
	主体態	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に取り組み、振り返り改善し、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
外国語	知・技	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。外国語の知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。
	思・判・表	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えたりしている。
	主体態	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

【評価の観点】 Ａ：十分満たしている Ｂ：おおむね満たしている Ｃ：努力を要する

【評定】 ５：特に高い程度を満たしている ４：十分満たしている

３：おおむね満たしている ２：努力を要する １：一層努力を要する

※諸事情により、評価・評定が総合的に判断できない場合は、「観点別学習状況」や「評定欄」に数値を記載せず、「／（斜線）」で示されることがあります。

(5) 進路選択

【県公立】（出願～学力検査は2～3月）

- ①学力検査 ・ 5教科（国・社・数・理・英）各50分
・一部の高校では、数学と英語で【学校選択問題(高難易度の問題)】が出題
- ②面接、実技 ・一部の高校：配点は高校ごとに異なる

【私立】（1月）

- ①出願の種類（「単願」「併願」）や、希望コースにより多種多様

【県立特別支援学校】（1月）

【就職】（1月）

- ア 入試問題は、ここ数年の特徴として「思考力」「判断・表現」に関する問題の増加があります。記述回答の問題で、「理由、考え方を書きなさい」「説明しなさい」「計算の過程や考えを書きなさい」等の設問で、思考の記述を求めています。（大学入試改革とも連鎖しています）
埼玉県教育委員会のwebサイトで過去問題や解説等を見ることができます。
（「埼玉県公立高等学校入学者選抜情報」などで検索）
- イ 志願校決定に向け、各高校（県公立・私立）で行う「説明会」「授業体験会」「部活体験会」「個別面談」に参加することが重要となります。
目標を持ち、日々の学習に取り組んでいきましょう。